

令和3年度 磐田市立竜洋西小学校 学校評価書

重点	目標・取組	評価指標	自己評価	○考察 ※改善策	学校運営協議会委員から
友達と本気で考える子	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもった、子どもにとって魅力的な単元計画を作成する。 ・ICTを授業の様々な場面で有効に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもって進んで学習に取り組んでいる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、85.0%であった。 ○子どもが主体的に学習に取り組むことができるように、教師が「子どもが主語になる授業」を意識して授業づくりを確実にやってきた成果であると考え。 ○子どもたちが主体的に学ぶための教師の指導技術については、今後教師のさらなる研修が必要であると考え。 ※子どもと教師が目指す授業のイメージを共有する。 ※子どもが語り、聴き合う授業にするために、教師の指導技術を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的に落ち着いた環境の中で子どもたちが集中して授業に取り組んでいる。 ○子どもたちから「まずはやってみよう」という言葉が授業の中で自然に出ていた。そして、子どもたちが授業の中で目の前の課題にまずは挑戦しようとする姿が見られた。そんな子どもたちの姿から、自分自身(学校協議会委員本人)が勇気をもった気がした。
自分も友達も大切にしている子	<ul style="list-style-type: none"> ・にしのこ10のやくそく、月のめあてを明確にし、子どもの表れに価値付けをする。 ・みんなのためになる委員会活動を子どもと教師と共に工夫して考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・にしのこ10のやくそくを守り、みんなのために行動している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、88.0%であった。 ○本年度、今まであったにしのこのやくそくの中から、特にみんなで守っていくとする「にしのこ10のやくそく」を設定したことで、みんなで楽しく学校生活を送るための行動や教師の指導・支援の方向性が明確となり、実践に結び付いていった。 ※1年経った子どもの姿から、本年度の取組を振り返ると共に、来年度に向け子どもの実態に合った「にしのこ10のやくそく」の見直しを図る。 ※子どもも、教師も日常を振り返り、改善していくための具体的な振り返りの場を設定していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○本日学校運営協議会で来校したときに、数名の子どもたちが会場に案内してくれた。「みんなのためになる」活動を学校で意識して取り組んできた成果であると思われる。 ○本日学校運営協議会で来校した時間が清掃の時間であった。児童が黙働で丁寧に清掃をしている姿が見られた。校長から話があった来年度のキーワード「考えて行動する」ことが今からできていると感じた。
明るく元気に生活している子	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や外遊びを通して、人間関係づくりができる場を設定する。 ・養護教諭、栄養職員と連携し、健康な心と体をつくる体育的行事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く関わり合いながら運動や外遊びをしている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、87.0%であった。 ○体を動かすことが、本校の児童において習慣になっており、本校の児童の良さであると考えられる。 ○朝の時間、昼休み(ロング昼休みを含む)には、多くの児童が外に出て、仲間と楽しく遊んでいた。 ※ただ体を動かす機会として運動や遊びを捉えず、運動や遊びを通して人間関係づくりができるように、現在の体育の授業やロング昼休みの取組を振り返り、改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動や遊びを通して、人間関係づくりを行っている取組はとてよいことであると思う。 ○昨年度同様にコロナ禍であり、様々な行事が今まで通りできない中で、教師が工夫をして、行事を粛々と行ってくれていることが分かった。 ○マスクの着用、手洗い等、感染症予防の取組がしっかりできている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・体の調子を整えてスポーツフェスティバルに参加している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○児童評価は、94.0%であった。 ○本年度も感染症蔓延予防のため、養護教諭が中心となり、充実した保健指導ができたと思われる。また栄養職員も体づくりのための食育教育を推進することができた。 ○体育行事でテーマを設定し、委員会活動と関連付けながら、子どもたちが主体的に健康な心と体づくりのための情報発信をすることができた。 ※本年度の実績を踏まえ、来年度も養護教諭や栄養職員との連携を意図的に教育課程に計画をしていく。 	

深い子ども理解	・授業力を高める。	・教師は、「子どもの学習状況を的確に把握し、付けたい力を明確にすることによって学力の向上を図る」ことができている。	A	○児童評価「授業の内容がよく分かる」が93.0%であった。 ○教職員評価の「子どもたちは当該学年の学習内容を理解していますか」が90.0%であった。 ○本年度は「子どもの姿で語る校内研修」を行ったことで、一人ひとりの教師が同僚の授業から学び、すぐに実践に結び付けることができた。 ※教師が同僚性を持ち、日頃から授業について振り返り、情報交換をする必要がある。そのために子どもと向き合う時間の確保、教師の教材研究の時間の確保につながる教育課程編成を進めていく。	○教師が自分一人ではなく、みんなで学び合ってよい授業をしていこうとする雰囲気があつてよいと思う。 ○働き方改革と言われているが、教師に余裕がないとよい授業ができないと思う。来年度の教育課程では教師が授業力を向上させたり、子どもと向き合う時間を増やしたりしていくための取組が行われていくと聞いた。よいことであると思うので、是非行ってほしい。
	・生徒指導力を高める。	・教師は、「子どもの心をつかみ、理解を深める。(言葉から、行動から、表情から)」ことができている。	B	○児童評価「学校が楽しい」が、86.0%であった。昨年よりも数値が上昇した。 ○生徒指導上の問題行動に対し、対応の初動を意識して行ったことで、大きな問題行動に発展することが少なかった。 ○担任一人に任せるのではなく、組織的な生徒指導を行ったことで、個々の問題行動に対し、より適切な対応をすることができた。 ※教職員評価の「個に応じたきめ細かな支援・指導ができていますか」が81.0%であった。個々の教師の生徒指導力を高めるために、起こった問題行動への対応について分析を行い、よりよい対応について教師間で共有をしていく。	○全体的に学校の中が落ち着いている。先生方の日頃の指導のおかげであると思う。 ○教師は子どもの姿を見て、適切な指導、支援を行ってほしい。そして、すべての教師がそのような意識の中で教育活動を行うことができるように、組織としての取組を今後も続けてほしい。
安全・安心の保証	・いじめや問題行動があつたとき教師は適切に対応している。	・いじめや問題行動があつたとき教師は適切に対応している。	A	○保護者評価は、90.0%であった。 ○いじめや問題行動があつたとき、教師が丁寧に聞き取りをすることで、問題の解決につながった。 ○教師間で困ったことがあれば互いに支え合う雰囲気づくりを心掛けてきたことで、教師が問題を一人で抱えることがなく、組織で対応することができ、それが適切な問題への対応につながった。 ※児童評価の「学校に相談できる人がいる」が81.0%であった。個々の教師の生徒指導力を高めるためと共に、児童と教師の良好な人間関係の構築を図る。	○来年度に向けて校長から学校経営目標が示されたが、その話の中で「一人も独りにしない」という言葉があつた。とてもよい言葉であると思う。一人一人の子どもたち、そして一人一人の教師がみんなで支え合える学校を引き続きこの目標で目指してほしい。 ○登下校は毎年課題になる。今後も安全な登下校について学校で指導を進めてほしい。さらに今後は地域のほうでも青パト等の協力についても考えていきたい。
地域とともにある学校	・子どもを守り育てる喜びと希望を学校と地域が共有し、学ぶ楽しさと意味を実感できる教育を地域とともに推進している。	・子どもを守り育てる喜びと希望を学校と地域が共有し、学ぶ楽しさと意味を実感できる教育を地域とともに推進している。	A	○児童評価の「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がある」が78.0%であった。 ○本年度も感染症蔓延のため、様々ななかかわりが制限される中で、地域の方々の様々な創意工夫のおかげで、地域とともにある学校についての評価はどれも高い評価を得ることができた。 ※本年度も教頭を中心に、学校運営委員会の委員の方々やCSCと連携し、地域の方々の力を学校運営に反映することができた。コロナ禍ではあるが、新しい生活様式の中で、学校と地域が連携できる取組を各学年の年間計画に位置付けるようにする。 ※来年度は学府の取組も少しずつ行われていく予定である。子どもの育ちの連続性を考えた取組について考え、カリキュラムマネジメントを推し進めていくようにしたい。	○校長から学府教育目標について話があつた。西小が小中一貫教育を意識して教育活動を行っていることがよく分かった。学府教育目標の実現に向けて、子どもたちの9年間の学びを、地域を巻き込んで行ってほしい。 ○今後も地域に信頼される学校づくりを進めてほしい。そのためには、まずは一人一人の教師が子どもや保護者、地域との信頼関係を築いていくことが大切である。今までどおり、子どもたちのために学校には頑張っていてほしい。

学校関係者評価を受けてのまとめ

学校運営協議会での話し合いを行い、運営協議会委員からも学校での取り組みへの高い評価をいただいた。学校運営協議委員からも言われたように、「信頼される学校づくり」に向け、常に何が必要かを考え、学校運営をしていきたい。また、今後地域の中で活躍できる子どもたちを育てていくために、学府教育目標、グランドデザインをベースに、教職員、学校運営協議委員、地域、外部機関が、同じ方向を向いて、学校教育目標「えがお かがやく にしのこ」の実現を目指していきたいと思う。